

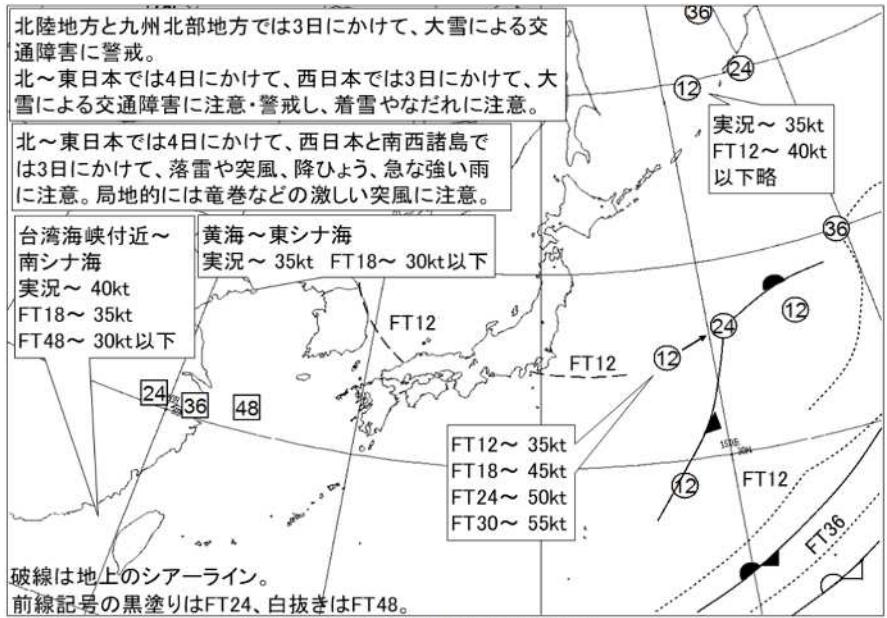
短期予報解説資料 2026年1月2日15時40分発表

気象庁

1. 実況上の着目点

① 日本付近は強い冬型の気圧配置となっており、日本海や黄海、東シナ海では筋状雲が大陸からの離岸距離が短く広がっている。北～西日本の日本海側を中心に3時間に5～15cm前後の降雪を観測し、太平洋側でも降雪となっている所がある。日本海寒帯気団収束帯 (JPCZ) が中国地方を指向し、雷を検知。関東地方南部付近にも地上のシーラインがのびており、海上で雷を検知。また、全国的に雪を伴ったやや強い風や強い風が吹き、波が高くしきている所がある。

② 500hPa 5280m付近に-36°C以下の寒気を伴うトラフが朝鮮半島付近にあって、南東進。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 1項①の強い冬型の気圧配置は、3日にかけて続く。4日は、高気圧が大陸から東シナ海に移動し冬型の気圧配置は緩むが、北日本を中心に西高東低の気圧配置が続く。850hPaでは、北日本には-12°C以下、東～西日本では-9°C以下の寒気に覆われ、降雪が強まり大雪となる所がある。JPCZは2日夜にかけて中国地方を指向し、その後不明瞭になる。北陸地方と九州北部地方では3日にかけて、大雪による交通障害に警戒。北～東日本では4日にかけて、西日本では3日にかけて、大雪による交通障害に注意・警戒し、着雪やなだれに注意。JPCZ周辺では、降雪の強まりに注意。

② 1項②のトラフは、3日にかけて本州付近を通過する。上空寒気の影響で大気の状態が非常に不安定となる所がある。全国的に3日にかけて、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。局地的には竜巻などの激しい突風に注意。トラフ通過の影響で、東～西日本の太平洋側、特に1項①のシーライン周辺の関東地方の平地では降雪が一時的に強まり、大雪となる所がある。東～西日本の太平洋側では3日にかけて、大雪や積雪、路面凍結による交通障害に注意・警戒し、着雪に注意。

③ 4日は、500hPaで-39°C以下の寒気を伴う寒冷渦が夜にはサハリン付近へ進み、上空寒気の影響で大気の状態が不安定となる所がある。北～東日本では4日は、落雷や突風、降ひょうに注意。

④ 2項①の強い冬型の気圧配置、2項③の西高東低の気圧配置の影響で気圧の傾きが大きくなり、雪を伴った強い風が吹き、波が高くしきる所がある。全国的に4日にかけて、強風や風雪、高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】

① 雨量(18時からの24時間)：多い所 (100mm以上) はない。

② 降雪量(18時からの24時間)：北陸70、近畿60、東北・関東甲信50、東海40・中国40、九州北部30、四国15cm。③ 波浪(明日まで)：伊豆諸島・沖縄5、その他広い範囲で3～4m。

④ 高潮(明日まで)：大潮の時期。北～東日本では、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無

「大雪と雷及び突風に関する全般気象情報」を17時頃発表予定。